

『Oxford 分子医科学辞典』推薦文

清水信義（慶應義塾大学医学部分子生物学）

本辞典は Oxford University Press 刊の “ Dictionary of Endocrinology and Related Biomedical Sciences ” の完全翻訳版である。もともと「内分泌学を中心とした医学辞典」として編集されたものであるが、日本語の題名『分子医科学辞典』が示すように、その内容は内分泌学にとどまらない。適当なキーワードで検索してみると、薬理学、生理学、分子腫瘍学、免疫学、発生学、細胞生物学、生化学、分子遺伝学、微生物遺伝学、ウイルス学、生物物理学、進化学など、きわめて多岐にわたって検索が可能であった。さらに本辞典を活用することによって、生体における分子ネットワークの存在があらためて実感できる。収録キーワード数は実に 13,000 語に及んでいる。

監修者の瀬野悍二先生（国立遺伝学研究所名誉教授）など多くの経験豊富な先生方による項目ごとの解説はきわめて懇切丁寧で、時には最新知見を加えて解説をより正確にした努力が散見される。そのうえ、最新情報からキーワードを独自に選択し追加して、新鮮味を欠くという辞典にありがちな弱点を見事に克服している。何よりも特徴的なのは、化学式や化学構造式、さらに重要な遺伝子の塩基配列やペプチド・タンパク質のアミノ酸配列が必要に応じて随所に示されていて理解しやすくなっている点である。また、略語、同義語、別名を多数収録しており、和文索引に英語が併記されているため和英辞典としても有用である。

翻訳作業中に執筆者の Martin 博士が逝去されたという不運にもかかわらず、さまざまな困難を乗り越えて本辞典を刊行された訳者諸兄に深甚の敬意を表す。このような特徴を備えた『Oxford 分子医科学辞典』は、医療に携わる医師や薬剤師、さらに創薬を目指す薬学研究者にとどまらず、広く分子医科学に関心のある方々の「知恵の泉」として重宝されることと確信している。